



# PLATILUX

—光あれ

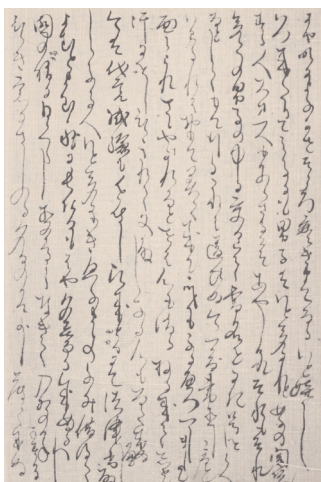
第18号 2021.4

=CONTENTS=

- ◇樋口一葉の図書館  
— 読むと読むほどに — (吉田 昌志)
- ◇図書館の利用と思い出 (小原 奈津子)
- ◇図書館の記憶 (清水 裕)
- ◇創立100周年記念特別展・  
新収貴重資料展
- ◇2021年度 図書館年間スケジュール



一葉が通っていた当時の東京図書館  
出典：『全集樋口一葉』第3巻  
小学館 昭和54 (1979) 年12月 P.29



樋口一葉日記 わか坤 (明治二十四年八月八日)  
出典：『樋口一葉日記』上 鈴木淳 樋口智子 越後敬子編  
岩波書店 平成14 (2002) 年7月 P.34

## 樋口一葉の図書館

— 読むと読むほどに —

副学長  
図書館長 **吉田昌志**  
YOSHIDA Masashi



樋口一葉のことは、前々号 (16号、2019年) にも少し触れたのだが、あらためて一葉と図書館について考えてみたい。

24歳で逝った一葉の研究は進んでいて、先行文献 (高橋和子氏「樋口一葉と上野図書館」『相模国文』19号、平4・3) もあるので、これを手がかりに述べてみよう。

一葉が通っていたのは、上野公園内、東京美術学校の西隣の東京図書館 (のち帝國図書館、現国立国会図書館) だった。市内唯一の公共図書館である。閲覧棟は木造2階建、1階に目録と出納所と男子閲覧室、2階に女子閲覧室があり、閲覧は有料で、入館には1回分2銭、10回分12銭の「尋常求覧券」を必要とした。

一葉「日記」に図書館のことが記されているのは、19歳の明治24年 (1891) 6月16日から26年11月16日までの2年5か月、30回以上の来館が確認できる。当時の一葉は本郷菊坂町 (現文京区本郷4丁目) に住んでおり、直線距離で約1.8kmだから、徒歩30分ほどあれば着いただろう。

最初のうちは「二時頃より、みの子ぬしと共に図書館に行。六時帰宅す。」とあるように、歌塾萩の舎の同門田中みの子との同伴が多いのだが、一人で行くようになった8月8日には「いつ来たりてみるにも男子は人多かれど女子の閲覧する人大方一人もあらざることこそあやしけれ」と、女子の少なさを記している。

閲覧したのは「太平記」「今昔物語」「東鑑」「日本書紀」「花月草紙」など、萩の舎では読むことのできない書物が多い。

24年4月には、職業作家として立つため、半井桃水を訪ね、その指導を受けるようになっていたので、小説「うもれ木」(明25・11-12) 執筆のために資料を索めたこともあった (明治25年7月21日/22日)。

また、25年2月28日には、新潟から来た田中みをのと邂逅、禅学 (禅の教理) の研究を志して上京した彼女と語り合い、「女子をして就学の便を得せしめ」ぬ「地方の習慣」に対する嘆きを聞いているが、この「習慣」は「地方」に限らず、小学校のみで進学を許されなかった一葉には、重く響いたのにちがいない。

こうした一葉にとっての図書館はどのようなものであったのか。それは、先に触れた24年8月8日に、

思ふままのふみ借得て、読むと読むほどに、長き日もはや夕暮に成ぬるべしと記された条に明らかである。

私もまた一葉と同じく「読めば読むほどに」時間を忘れた体験を共有している。

書物の豊かな世界にわが身を浸す充溢した時空間、そのような場を提供し続けてゆくことが、このコロナ禍にあっても、というより、そうであるからこそ、変らぬ図書館の使命だと思ふものである。

\* 日記の引用は小学館版『全集樋口一葉』第3巻 (昭54・12) に拠った。

# 図書館の利用と思い出

学長 小原 奈津子

図書館は私にとって、まだ読んでいない本のなかに描かれた未知の世界が尽きることなくあるような気がして、豊かで静かなそして楽しい気分になれる場所だ。図書館には色々な思い出がある。私の通っていた高校の図書館は洋館風の小さな古い建物で、本を借りるより放課後に友達と勉強した思い出のほうが強く残っている。大学時代は、キャンパスの中央にあった大きな図書館よりも、学科付属の小さな図書室をよく利用していた。そこに並んだ学術雑誌から必要な文献を探したり、当時の私達にとって難解だった理論や課題を友達と勉強したりしていた。私の卒業研究はある特殊な機能をもった新しい化合物の合成だったが、その合成法の一部をこの図書室の文献で見つけて指導教員に提案したりしていた。今にして思えば、少々生意気な学生であった。大学院修士課程では厳しくて有名な先生にご指導いただいたが、土曜日には先生は来られないので学生は自由であった。私は土曜の午前中のみ実験し、午後は図書館で自分が扱っている化合物は世界でどのように研究され、どこまで研究は進んでいるのかを文献で調べたりしていた。この自由な文献調査の時間は私にとってゆったりとした貴重なひと時であった。現在の私はまずPCを使って図書館のwebで文献検索し、目当ての文献をダウンロード、もしくは本学にある場合は図書館でコピーをする。本学にもなくダウンロードもできない文献は他機関にコピーサービスを依頼している。また、検索がうまくできない時はリファレンスカウンターで相談する。というわけで、図書館は主に研究のツールとして利用している。

ところで、3階のオレンジ色の椅子はなかなか優れたもので、「いつまでも座ってられる」と評価した学生もいるほどである。学生にはこの椅子に座ってじっくり本を読んだり、複数の仲間と文献やデータを見ながら話し合ったりしてほしい。地下の閉架書庫には、本や学術誌の他に貴重書や本学に縁のある人々から寄贈された、近代文庫を始めとする28種のコレクション（文庫）がある。この中にはまだ研究されていない書物や書簡などがあり、これらを研究する人が現れるのを待っている。このようにWeb上で情報を検索して調べる、貴重書・古書を研究する、興味ある本・資料を読むなど様々な利用法があるので、学生の皆さんには大いに活用してほしいと思っている。



3階フリーラーニングスクエアのオレンジ色の椅子



地下1階近代文庫。このほか、女性文庫やトルストイ文庫など、あわせて28の文庫がある。

# 図書館の記憶

教務部長 清水 裕

図書館に関する最初の記憶は、小学2年生の夏休みに家の近所の公立図書館へ友人と一緒にいったときのものである。1階がピロティーになっている近未来的な建物の2階に図書館の書架と閲覧室があった。当時はまだ珍しい、冷房のよく効いた閲覧室では、高校生や大学生らしきお兄さん・お姉さんたちが、黙々と勉強している姿が印象的だった。私たちも恐々とカウンターで着席札を借り、大人に混じって各々の番号の席で本を読んだ。図書館は非日常の秘密基地のようで、その後も友人と通うことになった。まだ「貸し出しカード」を冊数分渡して本を借りるアナログの時代であった。

中高生になると、図書の貸し出しは、機械でバーコードを読み取る方式が主流になってきた。しかし、図書館の蔵書を検索する場合には、アニメに出てくる釜爺ひきだしの抽斗を小さくしたような沢山の抽斗の中にある「カード目録」の中に、目的の本のカードがあるか否かを手作業で探す必要があった。この「カード目録」による検索は、大学生時代に本や資料を国立国会図書館で調べた時にもまだ必須の作業であった。

ところが、2000年代に入るとインターネットが急速に普及し、ネット上で図書館の蔵書をキーワード検索できるようになったほか、電子書籍や電子ジャーナルなどのデジタル資料も普及し、ネット上で図書や資料の中身を読めるようになってきた。図書館へ出かけて検索作業をしなくても、本や資料を探したり読んだりできるようになったのである。私は図書館へ実際に行くことを好むし、「カード目録」のカードには手書きのものが多くあり、いざ使わなくなると懐かしくも思うが、このコロナ禍においては、図書館のオンラインサービスに大変助けられている。昭和女子大学の図書館では、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、2020年度にはオンラインサービスをさらに整備・強化している。学生の皆さんには「電子資料の利用案内」を参照のうえ、各種論文の執筆をはじめ、授業の課題やレポート作成などにも図書館のオンラインサービスを大いに活用していただきたいと思う。



カード目録ケース



パソコンで蔵書検索できるようになる前は、このカードを引いて本を探していた。

# 創立100周年記念特別展・新収貴重資料展

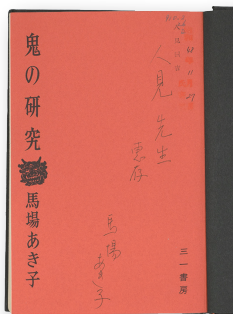
昭和女子大学は、2020年9月10日に創立100年を迎えた。図書館ではこれを記念して昭和女子大学創立100周年記念特別展・新収貴重資料展を、全4回開催した。

## 昭和女子大学創立100周年記念特別展・新収貴重資料展 I

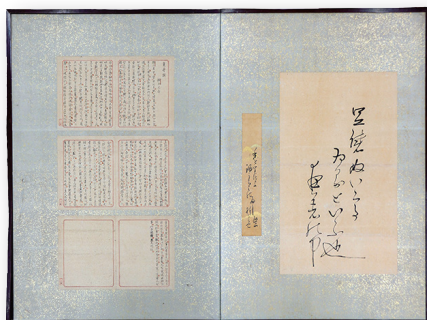
—歌人馬場あき子氏の文化功労者顕彰を祝して—

会期：2020年9月25日（金）～10月22日（木）

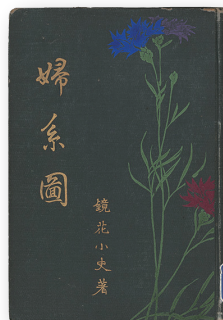
第1回は、卒業生で歌人馬場あき子氏の文化功労者顕彰を祝して、馬場あき子氏に関する資料、新収の貴重資料の中から尾崎紅葉の貼込二曲屏風・書簡、泉鏡花の印譜・書簡・作品、与謝野晶子の原稿・書簡、与謝野寛（鉄幹）の書簡を出陳した。



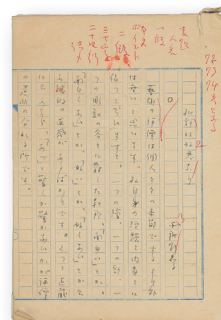
鬼の研究  
馬場あき子著 東京 三一書房  
昭和46（1971）年6月



尾崎紅葉貼込二曲屏風 尾崎紅葉【筆】 [18--]



婦系図 前編・後編  
泉鏡太郎著 東京 春陽堂  
明治41（1908）年2月-6月



批評は好悪なり（自筆原稿）  
与謝野晶子著【東京】 [192-]

## 昭和女子大学創立100周年記念特別展・新収貴重資料展 II —昭和学園を築いた人々—

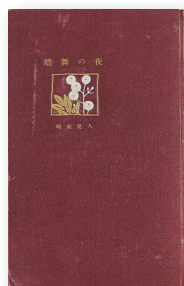
会期：2020年10月27日（火）～11月25日（水）

特別展示 馬場あき子氏の文化功労者顕彰を祝して

会期：11月7日（土）～12日（木）

第2回は「昭和学園を築いた人々」と題して、創立に関わった人見圓吉、人見緑、加治いつ、松平俊子、松本赴、坂本由五郎に関する資料と、新収貴重資料、加えて第1回に引き続き、本学卒業生の歌人馬場あき子氏の文化功労者顕彰を祝して、特別展示を期間限定で開催した。新収貴重資料からは、金屏風に54場面の絵を散りばめ、煌びやかな世界が描かれた「源氏物語絵貼交屏風」、明治期から昭和期にかけて活躍した10人の小説家、歌人、俳人の短冊を集めた「泉鏡花・与謝野晶子他短冊十枚貼込屏風」などを初出陳した。

11月9日に行われた創立100周年記念式典の際は、馬場あき子氏をお招きし、卒業生や本学関係者のほか、多くの方々にご高覧いただいた。



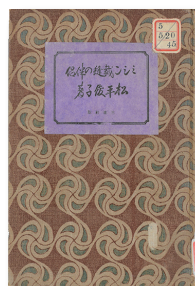
夜の舞踏  
人見東明著  
東京：扶桑社書店  
明治44（1911）年5月



人見緑追悼録  
【東京】：【昭和女子大学】  
【昭和36-37（1961-1962）年】



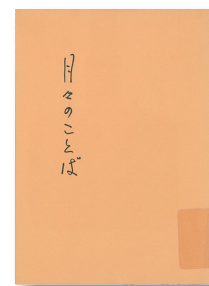
加治いつ校長（左）  
松平俊子学監（右）  
（人見楠郎編『学園の半世紀』  
昭和女子大学中高等部光葉会  
昭和47年11月刊行 複製版）



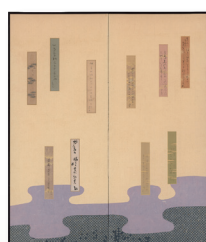
ミシン裁縫の伴侶  
松平俊子著  
東京：三井社出版部  
大正13（1924）年12月



何處へ往く 前篇・後篇  
シエンキエ井ツチ作、  
松本雲舟翻訳 東京：昭文堂  
明治40（1907）年12月  
-41（1908）年3月



月々のことば  
坂本由五郎著 東京：光葉会  
昭和45（1970）年10月



左：泉鏡花・与謝野晶子他 短冊10枚貼込屏風 泉鏡花他著【東京】：【出版地不明】【出版年不明】  
右：源氏物語絵貼交屏風 左隻【出版地不明】：【出版者不明】 [1--]



11月9日創立100周年記念式典  
後に展示観覧に訪れた卒業生。



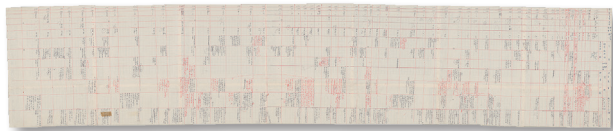
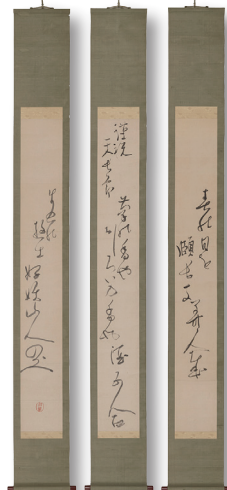
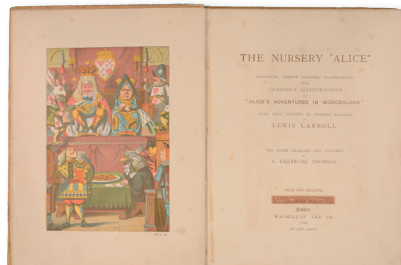
源氏物語絵貼交屏風の前にて、  
馬場氏（左）と説明する日本語  
日本文学科教授胡先生。（右）

# 創立100周年記念特別展・新収貴重資料展

昭和女子大学創立100周年記念特別展・新収貴重資料展Ⅲ 一昭和学園と教育の発展に寄与した人々―  
会期：2020年11月30日（月）～12月24日（木）

第3回は「昭和学園と教育の発展に寄与した人々」と題し、大学100周年を記念して新設した、保坂都文庫、人見楠郎文庫、松本昭文庫の資料及び、新収貴重資料を出陳した。

新収貴重資料からは、イギリスの文豪チャールズ・ディケンズの蔵書票が付された『The Holy Bible』（欽定訳聖書）、『The Nursery "Alice"』の初版本、尾崎紅葉句軸などを出陳した。尾崎紅葉句軸（実物）は、12月11日と14日に限定公開し、図書館長・大学院文学研究科の吉田昌志教授が、句軸の来歴などを解説をした。



上段左から The Holy Bible 欽定英訳聖書 London : Stationers 1649 / The Nursery "Alice" : containing twenty coloured enlargements from Tenniel's illustrations to "Alice's adventures in wonderland" with text adapted to nursery readers by Lewis Carroll; the cover designed and coloured by E. Gertrude Thomson London Macmillan 1889 / 教室の窓から今日わ：世界の学校見聞記 人見楠郎著 東京：図書出版東京書房 昭和39（1964）年10月 / 松本昭遺稿「お水取り」を巡る歴史 松本昭著 東京：アールズ出版 令和元（2019）年11月

津守家年譜 [保坂都作] [東京]：保坂都 [19-]

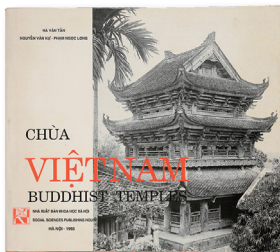
尾崎紅葉句軸3点 尾崎紅葉筆 [18-]

## 昭和女子大学創立100周年記念特別展・新収資料展Ⅳ 一ベトナム関係コレクション― 会期：2021年1月13日（水）～2月27日（土）

第4回は、「ベトナム関係コレクション」と題し、2018年11月に日本ベトナム友好協会から寄贈された新収資料をはじめ、人間文化学部歴史文化学科教授菊池誠一先生寄贈資料や国際文化研究所提供写真を展示した。本展では、54もの少数民族からなるベトナムの国情を反映した民族資料や民族語の辞典、民族学雑誌、ベトナム独立運動の指導者ホー・チ・ミンの全集、南ベトナム国家開放戦線のマニフェスト、ベトナム史研究において重要な歴史書、伝統文化や思想、文学など、幅広い分野の資料を出陳した。



Đại tướng Tổng tư lệnh Võ Nguyên Giáp = General Võ Nguyên Giáp (ボヴォー・グエン・ザップ総司令官、大将) / [Mạnh Chương ... [et al.]] (マイ・チュオン他) [Hà Nội] : Thông tin và Truyền thông ([ハノイ] : 情報・伝統省海外情報局) 2014



Chùa Việt Nam (ベトナムの寺院) / bài, Hà Văn Tấn; ảnh, Nguyễn Văn Kư, Phạm Ngọc Long; dịch, Hồ Hải Thụy (ハ・ヴァン・タン編) Hà Nội: Khoa học xã hội (ハノイ : 社会科学出版社) 1993



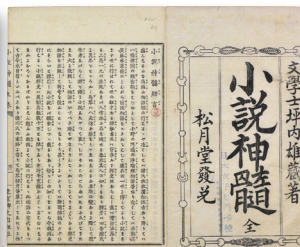
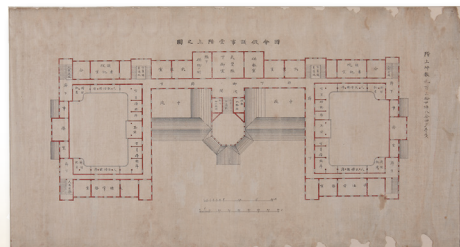
Kiến trúc phố cổ Hội An Việt Nam (Viện Nghiên cứu văn hóa quốc tế Đại học nữ Chiêu Hòa) ベトナム・ホイアンの町並みと建築 (昭和女子大学国際文化研究所紀要Vol.3) / Viện Nghiên cứu văn hóa quốc tế Đại học nữ Chiêu Hòa (昭和女子大学国際文化研究所編) Hà Nội: Nhà xuất bản Thế giới (ハノイ : 世界出版社) 2003

### 定期展示

図書館コレクション展 一昭和学園教育の礎― 会期：2020年3月3日（火）～5月30日（土）  
会期：2021年3月9日（火）～5月8日（土）

昭和女子大学図書館には、本学の特色をあらわす特殊文庫及び特殊コレクションを収蔵しており、貴重資料、準貴重資料として指定している2万2千点余の資料がある。

本展では、「昭和学園教育の礎」をテーマに図書館開設以来本学園教育、研究のために収集してきた近代文庫、女性文庫、トルストイ文庫の資料をはじめ、「國會假議事堂」（図面）、「小説神髓」などの重要かつ貴重なコレクション資料を多数出陳している。ぜひ実物を観覧し、本学園における教育・研究活動について理解を深めていただきたい。



左：國會假議事堂（階上之圖）アドルフ・シュテークミュラー、吉井茂則設計【出版地不明】【出版者不明】明治20（1887）年10月頃～翌21（1888）年6月頃

右：小説神髓 全（上・下）坪内雄蔵著 東京 松月堂 明治19（1886）年5月

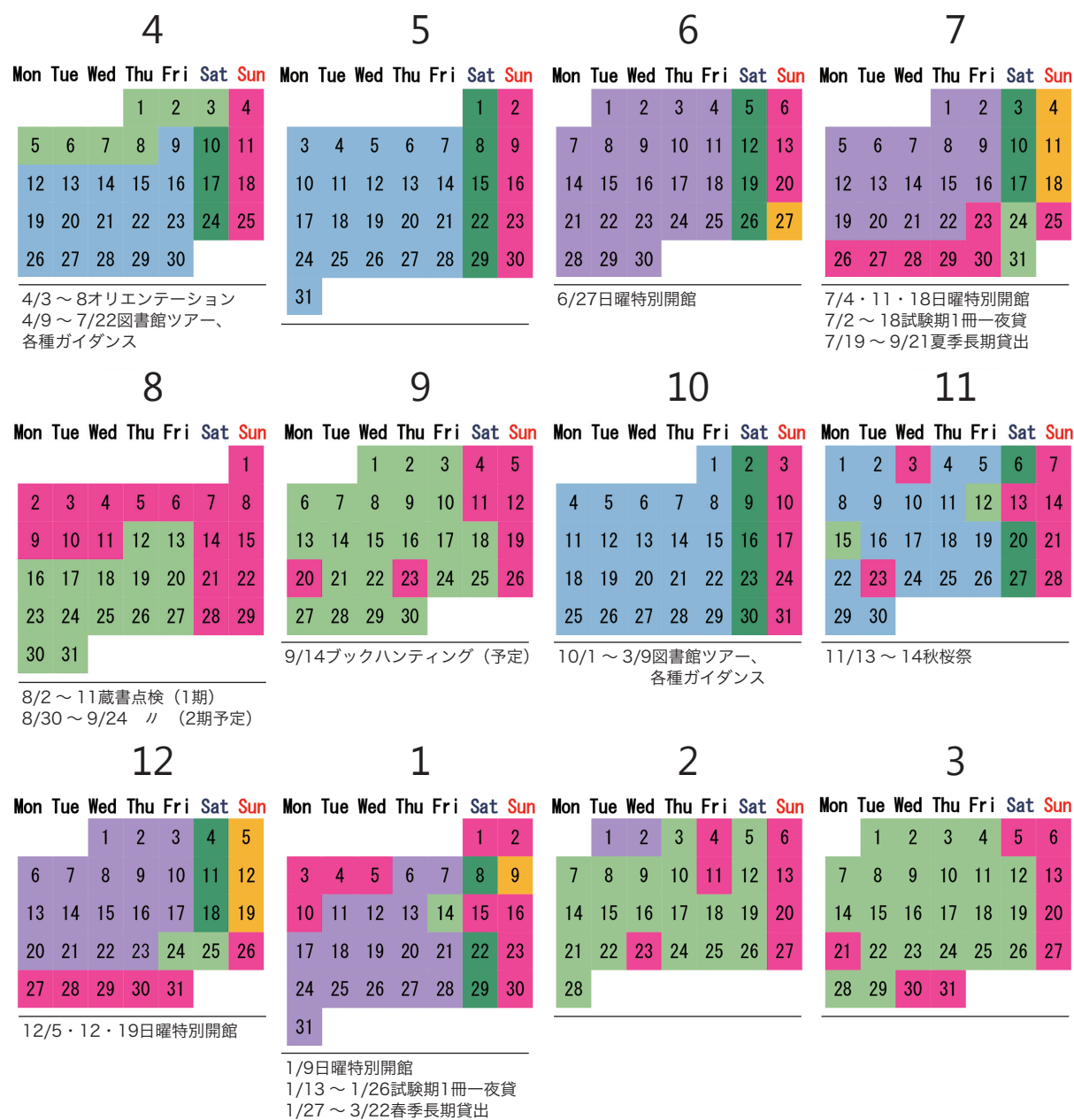


新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け図書館休館となった4月に、本展の動画を作成し、YouTubeにて限定公開した。  
URL : <https://www.youtube.com/watch?v=j-AbkAWQFY4>

# 2021年度 図書館年間スケジュール

最新の情報は図書館ホームページ参照

開館時間 ■8:45～21:30 ■8:45～20:30 ■8:45～18:30 ■8:45～17:00 ■9:00～16:00 ■休館



## ● 2021年度貴重資料展示予定 (変更する場合があります)

展示内容	展示期間
図書館コレクション展 —昭和学園教育の礎—	2021/3/9(火)～5/8(土)
図書館コレクション展 —簗木清方と近代作家—	2021/5/19(水)～7/21(水) ※一部博物館にて展示:2021/6/29(火)～8/22(日)
図書館コレクション展 —聖書・かるた—	2021/9/29(水)～11/17(水)
図書館コレクション展 —源氏物語の世界—	2021/12/1(水)～12/22(水) 2022/1/12(水)～2/2(水) ※一部博物館にて展示:2021/12/13(月)～12/22(水) 2022/1/12(水)～2/2(水)
図書館コレクション展 —昭和学園教育の礎—	2022/3/9(水)～5/11(水)